

2022年度 個人研究実績・成果報告書

2023年 4月 24日

所属	基盤教育機構	職名	専任講師	氏名	大勝 裕史
研究課題	ハリウッドのヴェトナム戦争映画（1960年代から1970年代中期）とその周辺				
研究キーワード	映画研究、英語教育	当年度計画に対する達成度	3.概ね順調に研究が進展し、一定の成果を達成したが、一部に遅れ等が発生した		
関連するSDGs項目	10.人や国の不平等をなくそう	5.ジェンダー平等を実現しよう	16.平和と公正をすべての人に	該当なし	

1. 研究成果の概要

研究成果は、映画研究に関するものと英語教育に関するものに分かれる。

去年の成果報告書で報告した論文「ヴェトナム戦争中のロバート・アルドリッチ：第二次世界大戦戦闘映画『特攻大作戦』と西部劇『ワイルド・アパッチ』」が、出版社都合で提出期限が延期されたため、修正を施して9月に原稿を提出した（現在校正中）。2025年出版予定の『アメリカ映画史入門』（仮題）の担当項目の執筆期限が3月末にあり、その原稿を提出した。題名の通り、本書はアメリカ映画研究の教科書的な入門書である。

英語教育では、機械翻訳を活用した授業活動の効果について研究を進めている。酒井志延先生（本学名誉教授）を研究リーダーとして、共著で二つの紀要論文を執筆した。

2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）

【論文（査読あり）】

【著書・論文（査読なし）】

「ヴェトナム戦争中のロバート・アルドリッチ：第二次世界大戦戦闘映画『特攻大作戦』と西部劇『ワイルド・アパッチ』」『映画史の問題』（ミネルヴァ出版、2023年度出版予定）2022年9月に提出済み、現在、校正中。
『アメリカ映画史入門』（三修社、2025年度出版予定）において、「戦争映画」「プレストン・スタージェス」「マーティン・スコセッシ」「ジョージ・キューカー」「ロジャー・コーマン」の項目の執筆を担当した。原稿は3月末に提出済み。

「進化する機械翻訳に対応する大学1年生の授業開発：ライティング指導を中心に」『千葉商科大学紀要 60(2)』酒井 志延、大勝 裕史、土屋 佳雅里、出野 由紀子、白土 さゆり、2022年11月。

「進化する機械翻訳を大学の授業で使うための教員の役割についての研究」『千葉商大論叢 60(3)』酒井 志延、大勝 裕史、土屋 佳雅里、2023年3月。

【学会発表等】

3. 主な経費

研究費の大半は論文と教科書（2025年刊行予定の映画学の教科書）の執筆に必要となる資料（研究書、DVDなど）の購入に充てられた。また今年度は映像資料を視聴するためのモニタを購入した。

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

基盤研究（C）：2021-2023年度、分担、課題名「機械翻訳を使いリメディアル教育を必要とする学習者の学習支援のための総合的研究」（21K00767）

（本文は2ページ以内にまとめること）